

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/23

リスク回避の動きがどこまで続くか

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	次の方向感模索へ 予想レンジ: 113.20 ~ 117.20 円	2-3
ユーロ/ドル	➡	1.40ドル台半ばの攻防がカギに 予想レンジ: 1.3900 ~ 1.4400 ドル	4-5
ポンド/円	➡	主体性のない相場に 予想レンジ: 130.20 ~ 134.40 円	6-7
ポンド/ドル	➡	ユーロ/ドルの動きに要注意 予想レンジ: 1.6000 ~ 1.6400 ドル	8-9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 5/16~20までの主な推移



<p>5/16 Monday</p>	<p>この日行われた欧州連合(EU)財務相会合で、ポルトガルに対する780億ユーロの金融支援が正式に承認された事に加え、欧州中銀(ECB)のピンスマギ理事が「インフレは数カ月間は2%超を維持する可能性が高い」「ECBはインフレ抑制のために必要な事を行う」と発言した事を受けてユーロ買いが強まると、ユーロ/円は115.23円まで上昇した。(①)</p>
<p>5/17 Tuesday</p>	<p>前日に報道された東芝や武田薬品工業によるスイス企業の買収に絡む円売り・ユーロ買いの思惑からユーロ/円は上値を伸ばした。さらにその後行われたスペインやギリシャの短期債入札を無難にこなした安心感からユーロ/円は116.22円まで上昇した。(②)</p>
<p>5/19 Thursday</p>	<p>トリシェECB総裁が「ギリシャが国債の償還期限を延長した場合、ECBのオペの適格担保として認めない」との見解を示した事を受けてユーロ/円が下落する場面もあったが、その後米新規失業保険申請件数が予想を下回る好結果となった事を受けて時間外のNYダウ先物が上昇し、米長期金利の上昇とともにドル/円が82円台に上昇すると、これにつれてユーロ/円は117.23円の高値を付けた。(③)</p>
<p>5/20 Friday</p>	<p>ノルウェーが、ギリシャは欧州経済領域協定が定める義務を果たしておらず、支援協定に違反している可能性があるとして同国への4200万ドルの融資を一時停止したとの報道や、格付け会社フィッチが、ギリシャの格付けを「BBプラス」から「Bプラス」に引き下げた事を受けてユーロ売りが強まると、ユーロ/円は115.50円まで下落した。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は113.39円～117.23円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約1.6%の上昇（ユーロ高・円安）となった。ギリシャの債務再編をめぐる懸念などから2週続いた下落は一旦止まった格好だ。ただ、ここから本格的に反発に向かうのか、下落相場の踊り場にすぎないのかは判断が分かれるところで、今週は、今後の方向性を見極める週となりそうだ。材料的には、25日に発表される本邦4月通関ベース貿易収支が注目される。事前予想では、東日本大震災の影響から大幅な赤字となると見られており、円売り材料となる可能性がある。一方で、ギリシャの債務再編をめぐる懸念は引き続きユーロ売り材料となりやすく、要人発言に右往左往する場面も見られそうだ。その他、不安定な値動きが続く主要国の株価や原油価格の動向がユーロ/円相場の波乱要因となる可能性もあり、目先的には方向感に乏しい展開が予想される。（神田）

（予想レンジ：113.20～117.20円）

テクニカル分析



●ユーロ/円 5/20週足引値：115.70円（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）ユーロ/円は、88.93円（2000/10安値）から169.95円（2008/07高値）へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円（8/24）を安値、115.97円（3/04）を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇して以降は揉み合いながら下落中である。先週のユーロ/円は113.39円の安値から117.23円へと上昇したが引値は115.70円となった。取引値は200日線（113.03円、5/20）よりも上値にあるものの、20日線（117.38円、5/20）、60日線（116.96円、5/20）を下回っている。ボリンジャーバンドは5/20現在、上限：122.17円～下限：112.58円で、バンド上限がやや下落の中、下限は下落している。ユーロ/円は5/16に安値113.39円を見て以降は、中段の揉み合いの推移となっている。ここから115円を割り込むよりも、117～118円を超える方向だとまずは思うが、5/23に5/20の下落をどのくらい回復できるかが焦点だ。基本的にあまり売り進むところではないというインスピレーションが湧くところ。上値ポイントは、①117.23円（5/19高値）、②117.59円（5/6高値）、③118.49円（4/29安値）、下値ポイントは①113.50円（5/20安値）、②113.03円（200日線、5/20段階）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 5/16~20までの主な推移



5/16 Monday	この日行われた欧州連合(EU)財務相会合で、ポルトガルに対する780億ユーロの金融支援が正式に承認された事に加え、欧州中銀(ECB)のビニスマギ理事が「インフレは数カ月間は2%超を維持する可能性が高い」「ECBはインフレ抑制のために必要な事を行う」と発言した事を受けてユーロ買いが強まると、ユーロ/ドルは1.4243ドルまで上昇した。(①)
5/17 Tuesday	米4月住宅着工件数が52.3万件(予想56.9万件)、米4月鉱工業生産が前月比±0.0%(予想+0.4%)といずれも弱い結果となった事を受けてNYダウ平均株価が下落して始まると、リスク回避の動きが強まりユーロ/ドルは1.4119ドルまで下落した。しかしその後、NYダウ平均株価が下げ幅を縮小し、一時95ドル台まで下落していたNY原油先物が反発した事を手掛かりにユーロ/ドルは1.4236ドルまで上昇した。(②)
5/19 Wednesday	トリシェECB総裁が「ギリシャが国債の償還期限を延長した場合、ECBのオペの適格担保として認めない」との見解を示した事を受けてユーロが下落する場面もあったが、その後発表された米経済指標が、4月中古住宅販売件数(505万件、予想520万件)、5月フィラデルフィア連銀景況指数(3.9、予想20.0)、4月景気先行指数(-0.3%、予想+0.1%)と軒並み弱い結果となった事を受けてドル売りが強まると、ユーロ/ドルは1.4324ドルまで上昇した。(③)
5/20 Friday	ノルウェーが、ギリシャは欧州経済領域協定が定める義務を果たしておらず、支援協定に違反している可能性があるとして同国への4200万ドルの融資を一時停止したとの報道や、格付け会社フィッチが、ギリシャの格付けを「BBプラス」から「Bプラス」に引き下げた事を受けてユーロ/ドルは1.4138ドルまで下落した。その後、NY原油先物の反発を背景に1.42ドル台を回復する場面もあったが、一時持ち直していたNYダウ平均株価が再び大幅下落となった事や22日に行われるスペインの地方選挙で、政権与党が敗北を喫するとの見通しが強まった事を受けてユーロ売りが再開すると、ユーロ/ドルは1.4132ドルまで下落した。(④)

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4047~1.4344ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.6%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。23日午前の取引で再び1.41ドルを割り込んでの推移となっており、2週続けて下げ止まる形となった1.40ドル台半ばの攻防が今後の方向性を左右しそうだ。欧州債務懸念と米国景気の減速懸念を背景にリスク回避の動きがどこまで強まるのかが焦点となる。足元で不安定な値動きが続く主要国の株価や原油価格が一段と下落するようなら、ユーロ/ドルも目先のサポートラインである1.40ドル台半ばを下抜け、弱含む展開となりそうだ。経済指標では、24日の独5月IFO景況指数、米4月新築住宅販売件数、25日の米4月耐久財受注、26日の米新規失業保険申請件数、米第1四半期国内総生産(GDP)・改定値、27日の独5月消費者物価指数・速報などが注目される。(神田)

(予想レンジ:1.3900~1.4400ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 5/20週足引値:1.4161(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940⇒5/16安値1.4047となっている。

現状の取引値は、200日線(1.3665、5/20)よりも上値に位置するが、60日線(1.4264、5/20)や20日線(1.4469、5/20)よりも下値に位置する。ボリンジャーバンドは5/20現在、上限:1.5006~下限:1.3931であり、ボリンジャーバンドの上限は横這い、下限は下落となっている。ユーロ/ドルは5/16の安値1.4047からリバウンド上昇で1.4344まで約300pips上昇したが、そこからは上値が重く、200pips以上も反落した。5/23の動きが重要であり、1.42台に回復するようであれば上昇再開で1.44-1.45を目指すとするが、1.4150以下で5/23引値になった場合には、1.4000-1.4050トライ再開の可能性が高くなる。上値ポイントは①1.4264(60日線、5/20段階)、②1.4347(5/20高値)、③1.4440(5/09高値)。下値ポイントは①1.4050(90日線、5/20段階)、②1.3907(1.2873-1.4940、今年の安値-高値の50%)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 5/16~20の主な推移



5/17 Tuesday	前日に報じられた「武田薬品工業によるスイス製薬大手ナイコメッド買収」などについての思惑から、朝から円売り優勢となる中、正午前に「東芝がスイスのスマートグリッド関連企業ランディス・ギアを買収」と報じられ、ユーロ/円が大きく値を伸ばすと、ポンド/円も連れて上昇。さらに、欧州市場に入ると17時30分発表の英4月消費者物価指数について、予想(前年比+4.1%)を超える、との噂が流れたことがポンド高要因となった上、実際に発表された英消費者物価指数が前年比+4.5%と予想を大きく上回ると、ポンド高に拍車がかかり、ポンド/円は133.16円の高値を付けた(①)。しかし、その後にはユーロ/円が反落すると、ポンド/円は連れて上げ幅を縮小した。
5/18 Wednesday	欧州市場序盤、17時30分発表の英国の4月雇用統計とイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会議事録について「雇用統計は市場予想よりも悪く、議事録では金融政策据え置きに賛成するメンバーが増えている」との噂が広がると、ポンドは下落。実際に発表された英雇用統計は予想より弱い結果になった一方、議事録で明らかになった金融政策決定時の投票バランスは噂に反して前回と変わらず、という結果になったことを受け、発表直後のポンドは一旦反発した。しかし、次第にポンド売りが優勢に転じ、午後10時前に130.77円の安値をつけた(②)。ただ、その後はドル/円の上昇や堅調なNYダウ平均に連れる形で132円台に値を戻した。
5/19 Thursday	夕方からのドル/円の上昇に連れてポンド/円はジリ高。17時30分に発表された英4月小売売上高指数が前月比+1.2%と予想(+0.8%)と大きく予想を上回ると、ポンド/円の上昇に拍車がかかった。さらにNYダウ平均先物の上昇などもあり、ポンド/円は132.93円まで値を伸ばした(③)。しかしその後、複数の米経済指標で予想を下回る結果となると、ポンド/円は急落し、一時131.95円まで値を下げた。

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週発表の英経済指標は25日の第1四半期国内総生産(GDP)・改定値程度と、独自材料には乏しい。ポンド/円は基本的に、主要国株価や商品相場、ギリシャの債務再編に絡む思惑等によって不安定な動きを見せるユーロ/円に連れる展開になりそうだ。また、今週は米国の経済指標が多く発表されるため、結果を受けてドルがポンドと円に対して大きく動いた場合、ポンド/円は乱高下すると考えられる。主体性に乏しい相場展開が予想され、方向感は出にくいだろう。ただし、先週の上値抵抗線となった133.00円の上値の重さを払拭出来れば、テクニカル主導での買いが入る可能性はある。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 130.20~134.40円)

テクニカル分析



●ポンド/円 5/20週足引値: 132.71円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。

ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながら下落推移している。現状では、200日線(131.80円、5/20)を上回るも、20日線(133.02円、5/20)、60日線(133.50円、5/20)を下回る推移となっている。ボリンジャーバンドは5/20現在、上限: 136.43円~下限: 129.62円であり、バンド上限、下限ともに下落推移であり、下落の流れの相場が確認できるところ。上値が重い推移が続いているが、あまり下落しない動きを見ると、1回は上値(134~135円)に持ち上げられる可能性を感じるころだ。上値ポイントは①133.02円(20日線、5/20段階)、②133.50円(60日線、5/20段階)、③134.01円(5/11高値)であり、下値ポイントは①130.20円(3/25安値)、②130円、③129.48円(122.98円⇒140円の61.8%戻し)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 5/16~20の主な推移



<p>5/17 Tuesday</p>	<p>午後に入り、日本企業による海外企業買収観測からユーロ/円が大きく値を伸ばすと、ポンド/円が連れ高となり、それに連れる形でポンド/ドルもやや上昇した。さらに、欧州市場に入ると17時30分発表の英4月消費者物価指数について、予想(前年比+4.1%)を超える、との噂が流れたことがポンド高要因となった上、実際に発表された英消費者物価指数が前年比+4.5%と予想を大きく上回ると、ポンドは急騰し、1.6300ドルまで値を上げた(①)。その後にユーロ/ドルが反落すると、ポンド/ドルは連れて1.6184ドルまで値を消したが、NY市場後半にユーロ/ドルが反発すると、ポンド/ドルも連れて1.62ドル台半ばまで値を戻した。</p>
<p>5/18 Wednesday</p>	<p>欧州市場序盤、17時30分発表の英4月雇用統計とイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会議事録について「雇用統計は市場予想よりも悪く、議事録では金融政策据え置きに賛成するメンバーが増えている」との噂が広がると、ポンドは下落。実際に発表された英雇用統計は予想より弱い結果になった一方、議事録で明らかになった金融政策決定時の投票バランスは噂に反して前回と変わらず、という結果になったことを受け、発表直後のポンドは一旦反発した。しかし、次第にポンド売りが優勢となり、午後10時過ぎに1.6104ドルの安値をつけた(②)。</p>
<p>5/19 Thursday</p>	<p>欧州市場に入るとユーロ/ドルの下落に連れてポンド/ドルは下落。しかし、17時30分に発表された英4月小売売上高指数が前月比+1.2%と予想(+0.8%)と大きく予想を上回ると、ポンドは上昇。NYダウ平均の上昇などもあり、ポンド/ドルはNY市場引けにかけて値を伸ばした(③)。</p>
<p>5/20 Friday</p>	<p>ギリシャの債務問題についての不安が広がり、ユーロ/ドルが下落する中、ポンド/ドルも1.6166ドルまで連れ安となった。その後に原油価格が切り返すとポンドは反発し、1.6302ドルの高値をつけた(④)が、引けにかけてユーロ/ドルが再び下落すると、ポンド/ドルは上げ幅を縮小した。</p>

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週の英国で発表される主要経済指標は25日発表の第1四半期国内総生産(GDP)・改定値のみ。予定されている英要人の講演などもない。一方、米国については、24日以降は毎日のように経済指標の発表が予定されている。基本的に米国の手掛かり材料からドル主導で動く相場になりそうだ。また、主要国の株価や商品相場が上昇すればポンド高・ドル安、主要国株安・商品安となればポンド安・ドル高の要因となる。

また、引き続きギリシャなど欧州重債務国の債務再編観測についての報道によってユーロ/ドルが大きく動けば、これまでに引き続きポンド/ドルも連れて大きく動くものと考えられる。関係報道には引き続き注意する必要があるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6000~1.6400ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 5/20週足引値:1.6244(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

4/28に直近高値1.6744を見て後、5/18には1.6104まで下落した。

取引値は、200日線1.5931(5/20)を上回っているが、60日線1.6281(5/20)や20日線1.6398(5/20)を下回って来ている。また、ボリンジャーバンドは5/20現在、上限:1.6731~下限:1.6095であり、バンド幅の上限は横這い、下限は下向きになってきている。下落基調ではあるが、1.60~1.64のレンジの中で考えたいところ。目先の上値ポイントは①1.6398(20日線、5/20段階)、②1.6515(5/11高値)、であり、下値ポイントは、①1.6104(5/18安値)、②1.6065(ボリンジャーバンド下限、5/20段階)、③1.60、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/23~26)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/23			トロント休場(ヴィクトリアデー)		
(月)	14:00		(日) 3月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	99.5	---
			(日) 3月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	103.6	---
	14:00		(日) 5月金融経済月報・基本的見解	---	---
5/24	15:00		(独) 第1四半期GDP・確報 [前期比]	+1.5%	+1.5%
(火)			(独) 第1四半期GDP・確報 [前年比]	+4.9%	+4.9%
	15:00		(独) 第1四半期個人消費 [前期比]	+0.2%	+0.5%
	17:00	◎	(独) 5月IFO景況指数	110.4	113.6
	23:00	○	(米) 4月新築住宅販売件数	30.0万件	30.5万件
			(米) 4月新築住宅販売件数 [前月比]	+11.1%	+1.7%
	23:00	○	(米) 5月リッチモンド連銀製造業指数	10	10
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	---	---
5/25	08:50	○	(日) 4月通関ベース貿易収支	+1894億円	-7450億円
(水)	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月28日分)	---	---
	15:00		(独) 6月GFK消費者信頼感調査	5.7	5.6
	17:30	○	(英) 第1四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.5%	+0.5%
		○	(英) 第1四半期GDP・改定値 [前年比]	+1.8%	+1.9%
	17:30		(英) 第1四半期個人消費 [前期比]	-0.3%	+2.0%
	21:30	○	(米) 4月耐久財受注 [前月比]	+2.5%	-2.0%
		○	(米) 4月耐久財受注 [前月比:除輸送用機器]	+1.3%	+0.6%
	23:00		(米) 3月住宅価格指数 [前月比]	-1.6%	-0.6%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	---	---
5/26	10:30		(豪) 第1四半期民間設備投資	+1.3%	---
(木)	18:30		(南ア) 4月生産者物価指数 [前年比]	+7.3%	+7.1%
	21:30	◎	(米) 5/21までの週の新規失業保険申請件数	40.9万件	---
	21:30	○	(米) 第1四半期GDP・改定値 [前期比年率]	+1.8%	+2.2%
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・改定値 [前期比]	+2.7%	+2.8%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	---	---

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/27)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/27	08:01		(英) 5月GFK消費者信頼感調査	-31	-32
(金)		○	(日) 4月全国消費者物価指数 [前年比]	±0.0%	+0.2%
	08:30	○	(日) 4月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.1%	+0.5%
	17:00		(ユーロ圏) 4月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	18:00		(ユーロ圏) 5月消費者信頼感・確報	---	---
	18:30		(スイス) 5月KOF先行指数	2.29	---
	21:30		(米) 4月PCEデフレーター [前年比]	+1.8%	+1.9%
	21:30		(米) 4月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.1%	+0.2%
			(米) 4月PCEコア・デフレーター [前年比]	+0.9%	+1.0%
	21:30	○	(米) 4月個人支出 [前月比]	+0.6%	+0.4%
	21:30		(米) 4月個人所得 [前月比]	+0.5%	+0.4%
	22:55	○	(米) 5月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	72.4	72.4
	23:00		(米) 4月中古住宅販売成約 [前月比]	+5.1%	-1.0%
	未定	○	(独) 5月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.2%	±0.0%
		○	(独) 5月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.4%	+2.3%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com